

2017年度（平成29年度）小中一貫教育推進事業報告書

1 実施内容等 ※研修，行事，地域・保護者への発表・公開等

時期	取組み
5月～2月 月に1回ペース で実施	校区校長会 : 本校区の小中一貫教育の取組みの方向性・検討，全体会の持ち方の検討，各校の状況の交流，次年度へ向けての協議など
5月	推進委員会 : 全体会の運営・各部会の調整
5月	東中学校体育大会リハーサル交流会 : 校区の6年生の児童が東中学校に来校し，体育大会のリハーサル（入場行進，応援合戦など）の見学
5月	全体研修会 : 本年度の活動方針・具体的な取組み内容等の確認。 校区スタンダード改訂に向けての検討 各部会の開催
6月・10月	乗り入れ授業 : 中学校の教員が，各小学校に出向き，英語の授業を行った。
8月	オープンスクール: 校区の6年生の児童が中学校で体験授業・体験部活動を行った。 全体研修会 : 「パフォーマンス評価の理論と実践」 講師 兵庫教育大学 奥村 好美 先生 各部会の開催
9月	東中学校区小中一貫教育研究会（手城小学校授業公開） : 「深く考え，議論する道徳科の授業づくり」 講師 貝塚市立南小学校 校長 川崎 雅也 先生
9月～2月	ふるさと学習部会 掲示物の交流 : 各学校の児童・生徒が「ふるさと学習」について制作した掲示物を，計画的に回覧，展示を行った。
6月～2月 3回	ふるさと学習部会 : 東中学校区版「知つとる検定」の作成，検討及び交流。 各校で実施にした「ふるさと学習」の成果物の回覧・掲示・交流。 来年度に向けてなど。
6月～2月 10回	豊かな心・ : 生徒指導，特別支援教育，体力向上に分かれて，それぞれ体力づくり部会 中学校の体育の授業を小学校の教諭が見学し研修する。 情報交換，実践交流，朝の挨拶運動の交流など。
6月～2月 3回	学力向上部会 : 「基礎・基本定着状況調査」「全国学力・学習状況調査」の分析・課題等の交流。「校区スタンダード」の実施，検証及び「学習の手引き」の使い方の交流など。
6月～2月 3回	授業改善部会 : 各校の授業研究についての交流・検証の方法

2 成果と課題（成果○ 課題●）

	<p>確かな学力</p>	<p>○「東中学校区スタンダード」を改善し、校区で意識統一して取り組むことで、学習規律や家庭学習が定着してきている。</p> <p>○パフォーマンス評価を校区で研修し、生徒作品をもとに評価方法や課題を交流することによって「授業に満足している」生徒の割合が向上している。</p> <p>○児童・生徒のつまづきを把握し、指導に生かすとともに、指導改善を行い適応課題に取り組む時間を確保できた。</p> <p>●学力テストの課題分析をし、校区としての課題のある単元を中心に取り組みを行う必要がある。</p> <p>●主体的な学びと学力の定着を目指し、家庭学習の充実に向けて校区で取り組む必要がある。</p>
<p>児童生徒の変容</p>	<p>豊かな心</p>	<p>○「東中学校区スタンダード」に9年間の系統性を持たせ、「あいさつ」「掃除」「身だしなみ」「時間を守る」等に継続して取り組むことで、落ち着いた雰囲気の中で生活できている。</p> <p>○日々の掃除指導や縦割り掃除などにより全校で意識してだまって掃除ができるようになってきた。</p> <p>○行事や学級活動で達成感や自己肯定感を高めることができた。</p> <p>●各行事が児童会、生徒会の主体的な取組みになるよう指導方法の改善を行っていく必要がある。</p> <p>●各校の生徒指導規程の交流を行い、学校間のギャップを無くし、校区で発達段階に応じた系統的な自己指導能力の育成に取り組む必要がある。</p> <p>●各校のE S D活動を交流し、9年間の発達に応じた系統性のある指導計画の作成し、ユネスコスクール加盟に向けて取り組む必要がある。</p>
	<p>健やかな体</p>	<p>○中学校の体育の授業や体力向上一斉活動日の活動を小学校の先生が参観し、専門的なトレーニングや指導方法の研修を行い、小学校の授業に活かすことができた。</p> <p>○「東中学校区スタンダード」に基づいて外遊びや体力向上トレーニングに取り組むことで、体力が向上してきている。</p> <p>●起床、家庭学習、就寝の3点固定を自己管理できるよう、ゲーム時間の管理やノーメディアデイなどの取組を校区で共通して取り組む必要がある。</p>

<p>小中一貫教育 カリキュラム 実施・改善状況</p>	<p>○校区スタンダードを「福山100NEN教育」の全体計画を関連づけ、改訂することができた。</p> <p>○パフォーマンス評価について全体研修を行い、「主体的で、対話的な深い学び」に向けての授業改善に校区全体で取り組めた。</p> <p>○中学校の運動会リハーサルへの参加や英語の乗り入れ授業など、小中ギャップをなくす効果があった。</p> <p>●9年間の学びを「21世紀型“スキル&倫理感”」として、具体的な付けたい力としてカリキュラム・マップに位置づけ、系統性を持った指導を校区で研究する必要がある。</p>
<p>「自ら考え学ぶ授業」 づくり 研究等実施状況</p>	<p>○授業公開を行い各校の授業を見合うことで、研究教科は違っても、ペア学習・グループ学習の取組など参考になるところを自校に活かすことができた。</p> <p>○パフォーマンス評価の実践を行うことで、思考、表現の主体性を伸ばす授業研究を行うことが出来た。</p> <p>●学び合い学習の活動方法を研修し、校区で共有し、取り組みたい。</p> <p>●話し合いたくなるペア・グループ学習に向けて、対話の型を活用し、さらに対話の内容を深める指導を継続する。</p>
<p>大好き！福山 ～ふるさと学習～ 実施状況</p>	<p>○ふるさと学習で得た知識を活用して、「福山知っとる検定」の問題を作成することで、学んだことを活用することができた。</p> <p>○地域への理解と愛着を深めるために、中学校区としての「知っとる検定」を作成することができた。</p> <p>○「知っとる検定」を継続して取り組むことで、小学校での経験を中学校で活かした取り組みとすることができた。</p> <p>●地域と連携した体験学習をさらに充実させていく必要がある。</p>
<p>小中一貫教育 推進補助員 活用状況</p>	<p>○小学校での英語の乗り入れ授業担当(中学校)の中学校での負担軽減を行った。</p> <p>○小中一貫教育推進のための、データのまとめ、集計等を行った。</p> <p>○配布物の印刷・教材づくりの補助などを行った。</p> <p>●学校の業務について、より効率の良い活用内容を考える必要がある。</p>
<p>その他</p>	<p>○ESD活動の研究</p> <p>ユネスコスクール加盟に向け、小中9年間を見通した系統的なESD活動のカリキュラムを研究する。</p> <p>ふるさと学習部会をESD推進（ふるさと学習）部会とし、中心的に研究していく。</p>